

# 広島へ行つて学んだこと

野崎 綾香

なぜ、戦争をするのでしょうか。そして、争をしても、何一ついいことがないのにどうしてだろうと、疑問に感じていました。広島で実際にあつたことを、見て聞いて学び、「戦争と向き合いたい」と思って、この事業に応募しました。

私が特に印象に残つたのは、「原爆の子の

像」です。この像は、佐々木禎子さんのが、九年後に突然白血病を発症して、八か月後になくなりました。闘病中、回復を願い、鶴を折り続けた禎子さんのことを見うと、何の罪もないのに、かわいそうだなという悲しい気持ちと、アメリカはなんてひどいことをしたのだろうという二つの気持ちがわいてきました。原爆では、しゆん時に亡くなつた人

禎子さんのように後障害で亡くなつた人がいます。生き残つた人も、熱線や放射線による被害、やけどのあとが盛り上がるケロイドなどに苦しめられました。禎子さんだけではなく、多くの子どもたちの生命も、夢も希望も、全てをうばつたのが原爆です。千羽鶴をささげる時、もう二度と多くの子どもたちが苦しむ戦争をしてはいけないと強く感じました。

平和祈念式典では、八十六カ国の人々が参列して、多くの国で平和を願う人がいるこ

とを知りました。八月六日八時十五分に、み  
んなでもくとうをしました。広島市内に住む

小学六年生の平和への誓いの『苦しみや憎し  
みを乗り越え、平和な未来をつくろうと懸命  
に生きてきた広島の人々。その平和への思い  
をつなげて、いく私たち』という部分に、共感  
しました。語り部さんのお話によると、被爆  
者の平均年齢は八十二才だそうです。私は、  
戦争を体験していないけれど、減少していく  
被爆者の代わりに、未来の子供たちに語り継

いでいくことが、私たちの役割だと考えてい  
ます。

平和を願う人がたくさんいる一方で、戦後  
七十三年間、一度も戦争をしていない国が日  
本を含めて八カ国しかないと、結団式で  
教わりました。私は、おじろいたと同時に、  
とてもショックでした。今現在、原爆よりも  
さらに恐ろしい核兵器が九カ国で保有されて  
います。核兵器が使われることは、絶対にあ  
つてはいけません。戦争が繰り返されるのは

国同士のお互いを思いやる力が足りないから  
だと思います。平和を実現するためには、身  
近な人を大切にするのと同じように、他国の  
人も力を通し合わせて、仲良くしていくこ  
とが大切です。

私は広島で学んだことを、友達や周りの人  
に伝え、平和についてみんなで話し合いたい  
です。新しい時代に向かっていろいろ平成最後の  
夏に、広島へ行くことができ、貴重な経験に  
なりました。どうもありがとうございました